

札幌市自立支援協議会

子ども部会ニュース

第2号 (2014年3月)
発行 札幌市自立支援協議会子ども部会 事務局
連絡先
〒007-0836
札幌市東区北36条東9丁目1-1
TEL:011-776-6856 FAX:011-776-6857
E-mail:muginoko@muginoko.com

今年度の子ども部会のまとめ

子ども部会2年目は、関係者の札幌市の障がいのある子ども達への熱い思いに助けられ、必要な多くの活動を行うことが出来ました。札幌市に住む障がいのある子ども達とご家族が孤立しないで幸せに暮らしていくためには、早期の母子保健、療育、幼稚園・保育園、学校、医療、ヘルパー等暮らしの支援も含めて連携していく必要があります。その役割を果たしていく場が、札幌市自立支援協議会子ども部会です。

課題もありましたが、お互いを理解することやサービス内容を知っていくことで解決できることがほとんどでした。全体研修会では、氏家先生に来ていただき、児童期の支援の方向性や連携を教えてくださいました。社会的養護の話し合いは、障がい児関係者だけではなく児童施策の養護施設等の方々も参加して下さい、「札幌に住む子ども達がどんな状況になってもみんなで支えていきましょう」と参加者で確認できたことは大変うれしいことでした。

次年度は、障がいのある子どもの計画相談等課題もありますが、札幌市の障がいのある子ども達のための環境が少しでも良い方向になっていくために頑張っていきたいと思えます。(部会長 北川聡子)

「児童期のショートステイ実態調査報告」について

市内の児童のショートステイの指定事業所は30か所あります。今回、受け入れの実態調査としてアンケート調査を実施し、28か所から回答がありました。その後、2次調査として28か所の事業所に電話で聞き取り調査を行いました。結果として、年間の利用実数としては、児童単独型で6,034名、成人併設型で3,826名で合計9,860名でした。全ての受け入れ枠を使い切っている訳ではありません。実際は、「成人施設での幼児利用の危険性」「障がいによる受け入れ困難」「児童施設での定数一杯」等でお断りすることも多く、受け入れ枠としてはあるが、十分な受け皿になっていない実態がわかりました。今後の課題としては、「児童単独型の事業所の増設」「特に、医療型の施設は急務である」「利用期間中の通学の問題」「3障がいに対応できる事業所のスタッフの養成」等が上げられています。今後もこれらの課題を踏まえ、各事業所の連携を通じて、「必要な時に何時でも身近で利用できる。」環境を作っていかなければと痛感しました。ご協力頂いた事業所の皆様に感謝申し上げます。(もなみ学園 宮脇)

「地域での巡回・訪問支援担当部署会議」について

昨年12月2日に市役所で「障がい児に係る訪問系事業者意見交換会」を開催しました。この意見交換会は、「障がい児の療育に関して、幼稚園・保育所等に訪問支援している事業者が集い、互いの業務内容を理解し、今後の連携へ繋げる」ことを目的とし、幼稚園訪問支援、札幌市障がい児保育巡回指導、障がい児等療育支援、保育所等訪問支援の各事業者に札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるを加えて、各事業の理解や、今後の連携・役割分担について意見を交わしました。どの事業も年々、支援する児童や保護者のニーズの多様化、支援する件数の増という傾向があるが、支援体制強化のため、人員配置増の検討や研修の企画実施の必要を確認した。また、今まで各事業者が一堂に介して意見交換する場がなかったことから、改めて顔の見える関係が構築でき、児童、保育所・幼稚園に対して重層的に支援に入ることの重要性について確認することができました。

(障がい福祉課 小野寺)



「子ども部会全体研修会」について

昨年 11 月 26 日(火) 18:00~20:00 WEST19 講堂で、全体研修会（札幌市児童発達支援センター長会共催）が、会場一杯の参加者(480 名)を得て開催しました。前半は、「発達支援と関連機関連携」のテーマで、氏家医院の氏家武氏の講演、後半は、「各ステージにおける発達支援の現状と課題」で、市内の発達支援機関及び保護者の方々にリレートーク形式で、開催時間ぎりぎりまで意見を述べていただきました。講演では、「親子に寄り添う支援」と「機関同士の信頼関係、情報共有、連携方法の工夫の大切さ」等について、専門医療機関の視点から述べてもらいました。リレートークでは、「各機関相互のタテとヨコの協力・連携の大切さ」「相談支援でのスキルアップと内容の再整理の必要」「地域で共に暮らすことの大切さ」等が提案されました。

各地域では支援会議が開かれたり、児童発達支援事業所の増加や、児童発達支援センター研修会の開催等により、幼稚園や保育園、児童発達支援機関の方の参加が多かった印象があります。(むぎのこ 金澤)



「社会的養護のネットワーク会議」について

今年 1 月 22 日(水) 10:30~12:00、札幌市役所にて開催されました。参加機関は、児童養護施設、母子生活支援施設、児童自立支援施設、里親会、障害児福祉施設、青少年自立援助ホーム、シェルター、児童心療センター、相談室等で初めて一同に集まりネットワーク会議を開催することができました。会議の中では、「施設の中で発達障がいや虐待の経験を抱える子ども達の割合が増えてきている」、「家族に問題があるケースが多くなっている」、「卒園後や社会に出てからフォローすることの必要性を感じている」等、現場の様々な意見と情報を交換することが出来ました。参加した先生達からは、今後もこのようなネットワーク会議の必要性を強く訴える声が多く聞こえました。(ノピロ学園 遠藤)



「子ども子育て会議・発達障がいネットワーク会議傍聴」について

平成 26 年 1 月 30 日 WEST19 にて、平成 25 年度発達障がい者支援関係機関連絡会議合同部会が行われ、早期発見・早期支援部会の傍聴をさせて頂きました。

札幌市における発達障がい早期支援体制の構築に向けた実態調査を行った報告でした。

発達に心配のある子ども達には、これからもいろんな課題や検討事項が考えられる中、子ども達を心豊かに育てていく為にも、子どもに関わる部会同志、今後は一緒に協力していけたらと思いました。(楡の会 金子)